

週日の説教

金 大烈 神父 2010年5月6日(木)

《イエス様の愛にとどまる》

昨日の福音(ヨハネ 15・1 8)には、「イエス様はブドウの木、私たちは枝である。そしてそのブドウの木の世話をするのは農夫で、その農夫は御父である。」という話がありましたね。そして「枝が木につながっていなければ、枝として一番大きな間違いである。実を結ばなければ、切られて火の中に投げ込まれ、燃やされる。」と続いていますね。枝が木につながるためには、何が必要だと申し上げたでしょうか。二つのことが必要だと申し上げましたね。一つは、『祈り』そしてもう一つは『愛の実践』です。そして『祈り』と『愛の実践』によって『喜び』と『感謝』の実りがあると申し上げました。信仰者であると言いながらも、もし自分の中に『喜び』と『感謝』の心がないのならば、反省をしなければなりません。義務感で信仰の中にいるのならば、『喜び』や『感謝』の心は絶対に生じないと思います。

「枝が、木につながっていなければならぬ」ということは、今日の福音(ヨハネ 15・9 11)のイエス様の言葉と全く同じことです。枝が木につながることは、「イエス様の愛にとどまる」ことです。今日の福音でイエス様は「わたしの愛にとどまりなさい。」とおっしゃいましたね。

さあ、皆様も私も、時々「今、どこにとどまっているのか」と考える時があります。私達は皆「私の足はどこについているのか」「私が好んで求めているものは何なのか」「どこにとどまってそれを望んでいるのか」を振り返ってみる必要があるのではないのでしょうか。結局『つながる』ということは、『神様のうちにとどまる』ことだと思います。どのようなことがあっても、私たちがとどまる場所はただ一つです。そのような思いが固く身についていれば、私達には問題がなくなると思います。絶対に忘れてはいけないことは、「何があってもとどまる場所は一つしかない」こと、「それは神様、イエス様が、教えてくださった愛のうちである」ことです。

今日の福音はとてもシンプルで簡単な話かもしれませんが、実際にはこれが一番基本的で難しいものであることをもう一回振り返ってみましょう。

ありがとうございました。